

令和5年度第4回 西宮市健康増進計画・食育推進計画推進会議 議事要旨

日 時：令和6年2月9日（金）午後2時～3時10分

場 所：西宮市役所池田庁舎 1階講堂

出席者：内藤委員長、川崎副委員長、岸本委員、藏田委員、潮崎委員、白石委員、坪内委員、林委員、
船橋委員

（事務局）

町田健康福祉局長、福田保健所長、村尾保健所副所長、園田保健所副所長

国民健康保険課 鴛海課長、高齢者医療保険課 岡課長、地域共生推進課 山本課長

教育研修課 山田課長、学校保健安全課 澤田指導主事（代理）

農政課 上野課長、保育所事業課 的場課長

食肉衛生検査所 梅田所長、食品衛生課 松本課長、藤田係長

地域保健課 中東担当課長

健康増進課 反田課長、川崎担当課長、向井係長、本田係長、安土管理栄養士、神田歯科衛生士
北原主任保健師

ジャパンインターナショナル総合研究所（ジャパン総研） 中山氏、伊藤氏

1. 開 会

資料の確認。

北川、澤田、高尾、山内委員欠席

出席委員9名、欠席委員4名につき会議の成立の確認。

傍聴希望無し。

内藤委員長に議事進行をお願いする。

2. 議 題

（1）「第3次西宮市健康増進・食育推進計画（素案）」にかかるパブリックコメントの実施状況等の
報告

事務局より資料1-1、1-2について説明。

<ご意見>

なし

（2）「第3次西宮市健康増進・食育推進計画（案）」の検討について

事務局より資料2について説明。

<ご意見>

なし

(3) 今年度の取り組み報告及び今後の取り組みについて
事務局より資料 3-1、3-2 について説明。

<ご意見>

委員：資料 3-1 の 1 ページ目、「(1) 健康管理と健（検）診」に「若竹ふれあい健康相談」、「女性のための検診併設健康相談」、「電話面接等健康相談」の 3 種類の健康相談があるが、小さい子どもを抱えた方や家族の介護がある方は出にくい状況がある。Zoom や ICT の利用については検討されているのか。2 点目、資料 3-2 の 2 ページ目、「3 幼稚園・小学校での栽培・収穫体験」で、市内の幼稚園や小学校で栽培や収穫体験はいいと思うが、すべての幼稚園・小学校で行うのかという点と、理科の授業でのミニトマト等の栽培と、この事業の違いを教えてください。

事務局：相談の形態については、当課が保健センターで実施している健康相談の主なものは、対面で面接の形がほとんどだが、センターに来られて話をしたり、電話でも相談を受けている。ICT の活用については、コロナ禍で対面での面接が難しい状況だったため、「妊産婦オンライン相談」で Zoom を利用した相談を実施している。オンラインでの相談の体制はあるため、希望があれば高齢者の方でも実施は可能である。

事務局：「食育で育てたい食べる力」について、6 点を「西宮教育推進の方向」に記載している。「心と体の健康維持」、「食べ物の選択や食事作りの意義」、「食べ物をつくる人へ感謝の心を持つ」などを目標として実施しているものについては、食育といえると考えている。理科との違いについては、理科的な学習指導要領に記載されている目標を達成しようと思うと理科になるが、場合によっては、食育の「食べ物をつくる人への感謝の心を持つ」という目標を持つと理科ではなく、教育課程上は総合的学習の時間になると考える。すべての幼稚園・小学校で実際どれくらい行われているかは、現在資料を持ち合わせていないため分からないが、多くの小学校・幼稚園で、さつまいも、ミニトマト、キャベツ、米やそれ以外のものをつくったり、例えば、小学生が幼稚園にイチゴの苗を持って行くという交流があったりして、取り組みが広がっていくということはあると思う。

委員：「にしのみや健康ウォーキングラリー」について、参加者 174 名の年齢別の参加状況を教えてください。また、市のホームページに「応募者の中から 100 名に 500 円分の QUO カードをプレゼント」というインセンティブがあるが、これは今後も続けていくのか。

事務局：今回、初めての試みだったが、広報が行き渡らず参加人数が少なかった。年齢分布としては、30～50 歳が 7 割を占めており、働き世代の方に多くご参加いただいたと思う。参加者は、女性が 6 割、男性 4 割で、思っていたよりも男性の参加が多かった。インセンティブとして、今回、抽選で QUO カードが当たる形にしたが、予算がある限り実施しながら、今後につながるような取り組みに拡大できればと思う。

委員長：資料 3-2 の「社会資源情報サイト「にしま〜れ」」では、10 月末時点で約 10 万人の閲覧数があったとのことだが、これは増えている状況なのか、同じ状況なのか。また、アップデートの予定を教えてください。

事務局：閲覧数は増えているが波はある。市政ニュースに掲載した月は閲覧数が伸びるが、穏やかな月もある。月に 3 万回閲覧されるときもあれば、少ないときは 7,000 回で推移している。情報については随時更新しており、少なくとも年に 1 度は現在の活動情報を確認して、最新のものを載せている。

委員長：いろいろな情報があふれているので、本当に価値の高い情報を欲しい人に合致した形で提供できればと思う。「にしのみや健康ウォーキングラリー」のように良い取り組みはぜひ継続してほしいし、取り組みで行ってみて、その中で学んで、新しいアイデアで生活習慣の改善に役立つような、地域の結び付きが強化されるようなものに発展できればと思う。

委員：資料 3-2 の「幼稚園・小学校での栽培・収穫体験」については、食育推進の目標に従って出されていると思うが、これを西宮市でどのように学校等に提示をして、実施をするのは誰で、実際どのくらいの幼稚園・小学校がこの栽培を始めたのかを教えてください。

事務局：今回、新規として挙がっているが、西宮教育の中では、食育という言葉が使われる前から、感謝の気持ちを持つということ、取り組みはあった。それを今回皆さんに提示するために特別に取り上げているという経緯だと思う。各学校を回っていると、多くの学校で何らかの形で取り組まれているが、すべてとは言い切れないところはある。例えば米作りも、形は違うがいくつもの学校で行っている。米作りは、教育課程で社会科の目標をもって実施しているところもあると思うが、視点を変えれば、食育の観点でも子どもたちに影響を与えたり、食育を育むことになると考えている。すべての学校でとは言い切れないが、何らかの形で食育を実施していると考えている。

委員長：学校の場合、公平性を考えると全部の学校で取り組むということになると思うが、新しい取り組みとしてモデル的に実施して、よければ全部の学校で取り組むというやり方もあると思うが、いかがか。

事務局：食育の担当者がそういう取り組みについても共有しているので、委員会から指示があつて強制的に行うというよりは、教育課程の編成は学校に責任があるため、ボトムアップの中で取り組んでいるところがたくさんあると考えている。

委員長：西宮市に栄養教諭の協議会のようなものはあるのか。

事務局：本日、担当課が欠席しているため、確認する。

委員長：ライフコースアプローチを国も強調しているので、今までは教育と行政の連携が取れていな

いところもあったと思うが、子どもたちが西宮で仕事をしたり、一生を終えたりすることもあり得るので、これまで以上に連携を密にしていただければと思う。

委員：資料3-2の「5 親子で干し柿作りと芋掘り体験」は、健康づくりと食育を分野横断的に行っており、大変いい取り組みだと思う。また、担当課が都市ブランド発信課ということで、健康づくりや食育とは路線が違う課が参加しているのも大変いいと思う。この事業の指導者はどなたなのかを教えてください。

事務局：担当課の都市ブランド発信課が推進会議の事務局メンバーではないため、本日出席していない。詳細は分からないが、都市ブランド発信課が行っている食品の関連事業者様との共同事業で市の大きなイベントをされているが、そこで取り組む中の一つに挙げていただいている。事業者の人からご支援を受けて事業を行っているため、地域の方からレクチャーを受けていると思うが、詳細は確認してお答えしたい。

委員：民間を含めて地域の社会資源を活用されているのは、とても良いと思う。

委員長：ほかになれば、資料4について、事務局より説明をお願いします。

事務局より資料4について説明。

<ご意見>

委員：「健康管理と健（検）診」のところで、西宮市は女子大や大きな大学があり、若い女性が多いまちという印象がある。その現状を踏まえて、施策③「女性の健康づくり体制の充実」を挙げられているのは大変意義深いと思う。資料4の「今後取り組むべきこと」に「女性」が挙げられており、行動変容を促す仕掛け等があるということだが、女性特有の状況について今までの議論を思い出してみると、「やせが多い」、「がん」、「ライフステージに合わせた健康」、「骨対策」があるが、今年度策定されるアクションプランで、若い女性の状況を見据えるときに、月経困難症が相当つらく、社会的資源を損なう状況だということが反映されるのかを伺いたい。今回の能登半島の震災で、隠れていた女性の問題が図らずも明らかになった。高齢者、中高年、若い女性といろいろなステージの女性の環境があるが、月経困難症が女性たちに与える影響がとても大きいと感じているため、アクションプランに入るのかを伺いたい。

事務局：「取り組むにあたっての課題」の「骨対策」は誤記のため訂正する。骨粗しょう症のことや高齢期の骨折等、これまで頂いた意見を踏まえて対策が必要だということで書き留めていたが、若い女性のやせ、女性特有のがんについても対策が必要というところである。月経困難症への対応については、本計画が健康づくり、特に生活習慣病予防やがん予防をメインにまとめているため、今後の具体的な取り組みや国のアクションプランに入ってくるのかは不透明だが、現時点では検討していない。

委員長：国は、第三次の健康日本21を去年の5月に整備し、今年の4月から始まるため、国の方針と合わせるところはあると思うが、各自治体固有の問題に対するプロジェクトのほうがやる気が出ると思う。今、分野別で整理されているが、全体方針として西宮市らしい健康づくりの柱はどうなるのか。

事務局：国の方針と課題が似ているため参考にしているところが多いが、若年女性のやせが顕著ということや女性の高齢期の骨折が多いという課題については、今後より対策が必要である。女性の健康づくりを強化するということと、20代～30代の方の健康課題が多く、無関心層の方も多いうところも課題として挙がっているため、若い世代の方の食育力の強化と、国も進める「自然と健康になれる環境づくり」ということで、「食育・健康づくり応援団」の活用や拡充を進めたい。

委員長：「自然と健康になる」という言葉を国が推し進めているが、自分で健康づくりが大事だと自覚する市民をつくっていくことが大切だと思うので、リテラシーの高い市民をつくることも大事だと思う。西宮市らしいところを整理してまとめていただきたい。ほかにご意見、ご質問はないか。なければ、議事（4）「第3次西宮市健康増進・食育推進計画」の推進体制について、事務局より説明をお願いします。

（4）「第3次西宮市健康増進・食育推進計画」の推進体制について
事務局より資料5について説明。

<ご意見>

委員長：コロナ禍では、第二次健康日本21や各自治体の健康増進計画に環境がマッチせず、迷っている自治体があったという特別な時代であった。12年は今の世の中の変化のスピードから考えると大変長い期間なので、12年後を予想できてこのままいけるかということ、状況が急に変わることもあると思う。そういう場合に対応する仕掛けはあるのか。

事務局：12年の長い計画だが、中間年の令和11年に中間評価を行うので、必要に応じて計画全体の見直しを図ることはできると思う。毎年の取り組みや事業については、非常時にも対応できるように各部署でBCPの計画を持っているので、それと併せて効果的に事業を進めたい。

委員長：健康増進計画は、平時には長いスパンでPDCAサイクルを考えられるが、感染症や天災や急激な世の中の変化には別の体制を取る必要があるため、年1回の会議で状況に合わせて、臨機応変に修正できるような体制を整えておいたほうが良いと思う。特にコロナ禍では外も歩けなかったため、室内でしっかり体を動かす人はいいが、ディスプレイを見続けると目に悪いし、運動不足にもなるし、メンタルにもよくないということで、健康に対するダメージは大きかったと思う。感染予防にはよいが、生活習慣病に関してはデメリットもあったので、トータルで考えるとどちらにメリットがあったのだろうかを考える。がん検診にも行かなくなり、急にがんが増えたとも言われているので、非常時の体制を計画に入れておいたほうが良い

いと思う。

副委員長：不測の事態が起こることは多いし、たばこに関しても、計画は立派にできているが現場では治療薬が不足し対応できないなど、現実と理想が離れることは多々あるため、臨機応変に考えていくことが必要だと思う。その際はこういう会議で意見交換をして、みんなの知恵を集めれば、方向性が見えてくると思う。

事務局より参考資料1について説明。

<ご意見>

なし

委員長：議事は終了した。事務局より連絡事項があればお願いします。

3. 事務連絡

計画案は3月の市議会への所管事務報告後に完成となる。

市民配布用の計画の普及版パンフレットを作成予定で、次回の推進会議で報告する。

次回推進会議の日程等は、決まり次第連絡する。

4. 閉 会